

新得町地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

1. 既往資料による地域及び公共交通の概要

(1) 人口の推移・推計

- ・令和2年から令和12年にかけて16ポイントの人口減少が推計されている。
- ・高齢化が進むが、高齢者人口は減少に転じるものと推計されている。

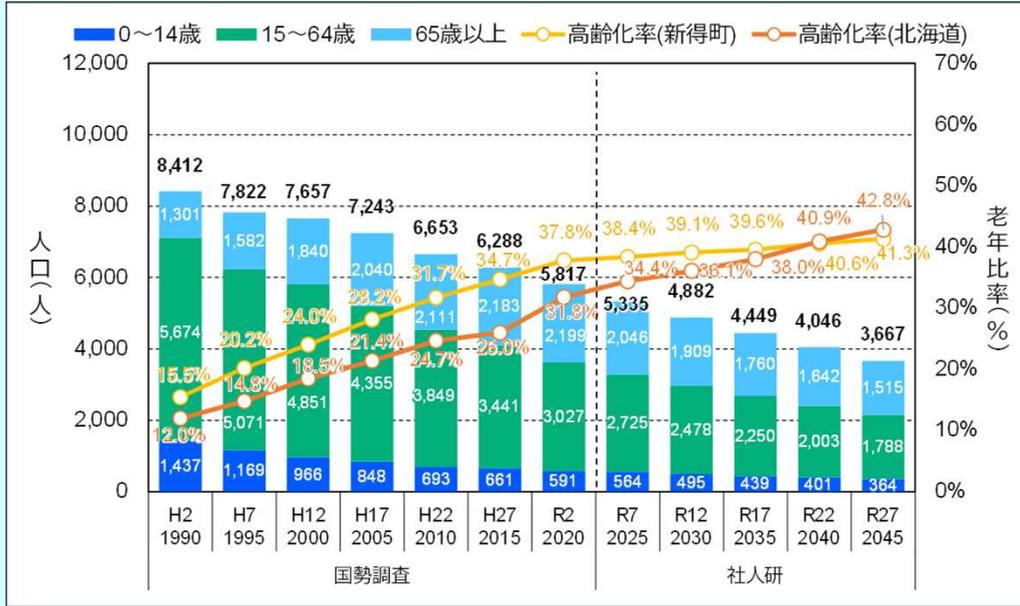


図 人口の推移・推計 (国勢調査、社人研推計値)

(2) 路線バス

- ・新帯線は令和4年度で輸送人数がやや回復するも、輸送人数は10.5と地域間幹線系統の維持・確保が必要である。
- ・地域内フィーダー系統のコミュニティバス「そばくる」は、新得市街地と屈足市街地をきめ細かく運行するが、輸送人数が減少したため一人当たりの輸送に掛かる費用は、ハイヤー輸送の2倍程度が必要となっている。
- ・その他の郊外部のバス路線については、1日当たりの運行便数が1、2便となっており、沿線住民の生活交通が十分に確保されていない。

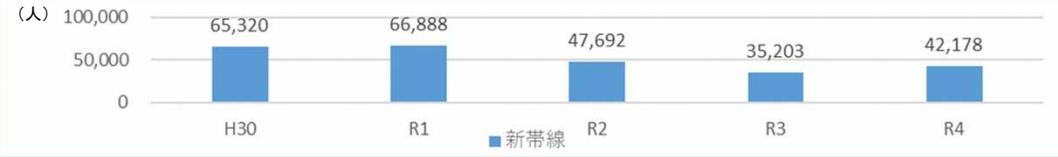


図 新帯線の輸送人数の推移



図 市町村単独補助路線の輸送人数の推移 (新帯線・屈足線・上佐幌線畜産試験場線・トムラウシ温泉線)



図 市町村単独補助路線の輸送人数の推移 (そばくる・屈足早朝線・屈足通院線)

(3) スクールバス

- ・支援学校通学バスを含め7路線のスクールバスは全町域を網羅するものの、登校便においては定員に近い路線がある。

(4) 町独自の移動支援策

- ・下表における移動支援策を実施している。

施策	内容
高等学校生徒通学費等補助金交付事業	町内在住の高校通学生の通学定期代の1/3の金額を補助
福祉交通費助成事業	満65歳以上の要支援・要介護の認定を受けている者に年10,000円分のタクシー助成券を交付
生活バス路線運賃補助事業	本町に住所を有する方に、路線バスを一律100円で利用できる補助券を30枚配布
総合時刻表の作成・交付	鉄道・バス・コミュニティバスの時刻が一目でわかる時刻表の作成・交付

新得町地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

2. 地域公共交通実態調査(ニーズ把握調査)

(1) 住民アンケート調査

① 調査の方法

- ・新得町にお住まいの全世帯（3,000世帯）を対象に各世帯3名までが回答可能なアンケートを実施した。

② 調査により明らかになった点など

- ・運転に不安を持つ方が多いことや、高齢になるにしたがって運転を過信する傾向にあることと、また運転免許自主返納特典制度の有効性が明らかとなった。
- ・自家用車に頼った交通実態と、JRや路線バスの利用機会の少なさが明らかとなった。
- ・細かく配置された停留所に電話すると15分ぐらいで来てくれるデマンドバスが、現在の路線バスよりもニーズがあることが明らかとなった。

【運転への不安】

- ・「運転に不安を持つ方」が多く、「30～49歳」以上においてこうした方が増加する傾向にある。



図 運転への不安 (年齢別)

【事故を回避できる自信】

- ・「65～74歳」以上において、年齢が高くなるにしたがって「事故を回避できる自信がある」方が増加する傾向にある。



図 事故を回避できる自信 (年齢別)

【公共交通の利用状況】

- ・路線バスの利用は1割未満にとどまる。



図 各公共交通の利用状況

①週に数回
②月に数回
③年に数回
↑
「利用あり」として整理

【デマンドバスの利用】

- ・電話すると15分ぐらいで来てくれるデマンドバスは「すぐにでも利用」と「5年以内に利用」が32.7%で、「そばくる」の5.3%～7.2%よりもニーズが多い。



図 新しい公共交通の利用意向

【住民自らが考える公共交通】(住民ドライバー)

- ・「ボランティアとして参加」と「賃金をもらえるのであれば参加」を合わせると2割程度で、65歳未満では45人の方が住民ドライバーとして参加・就業が可能としてみる。

②ボランティアとして参加可能, 9.8%

③賃金をもらえるのであれば参加可能, 10.4%

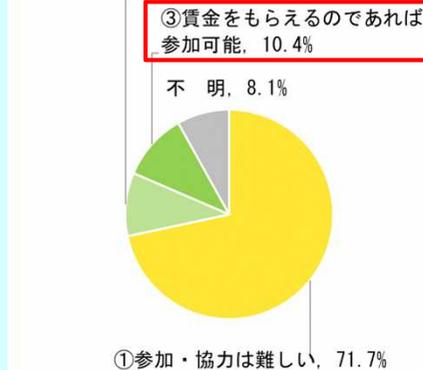


図 ドライバーとしての参加・協力

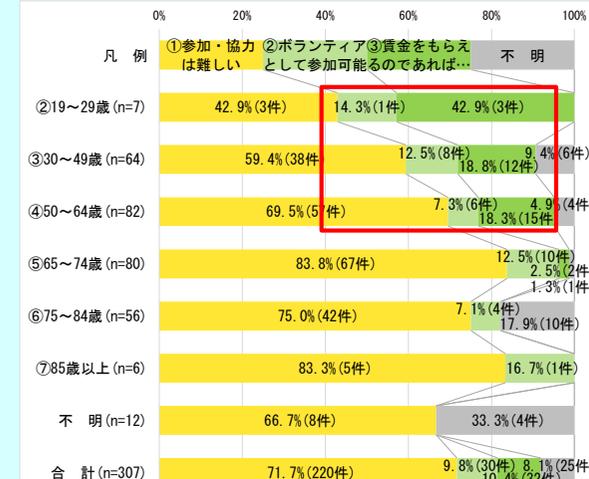


図 地域の方を送迎する運転業務について、ドライバーとして参加・協力したいか (年齢構成別)

新得町地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針(案)

1. 基本理念

住み慣れた地で生活し続けられる生活交通を確保するとともに、観光振興など交流人口の拡大に寄与するために、利用ニーズにあった効率的・効果的な地域公共交通体系を再構築する

2. 基本方針

(1)幹線交通・広域交通の維持・確保

十勝地域公共交通計画と整合を図り以下と定める。

1)広域移動ニーズを支える公共交通の確保に向けた検討・実施

- ・広域移動に係る利用実態を把握するとともに、地域ニーズを踏まえた移動手段の最適化に向けた検討をはじめとした持続可能な広域交通ネットワークの確保に向けた取組を進める。
- ・取組の概要は、「広域移動に係る利用実態の調査、分析」、「移動サービスの最適化に向けた検討、実施」及び「地域ニーズを踏まえた移動手段の調査、研究」。

(2)町内公共交通体系の再構築

1)現計画による運行の維持

- ・町内公共交通体系の再構築を図るまで、暫定的に現計画による運行を維持する。

2)最適化による町内公共交通体系の再構築

【新得市街地デマンド交通の創出】

- ・一人当たり運行費等がハイヤー料金以上を要している現状を解消していくために、新得市街地において予約方式のデマンド交通を創出する。
- ・乗車予約に対するリアルタイムでの輸送を可能とする運行システムの導入を検討する。

【屈足地区路線デマンド交通の創出】

- ・早朝において屈足地区から新得駅への高校通学動線を確保するバス路線を維持する。
- ・前述の利用ニーズ等から、日中において屈足地区の居住者宅と新得市街地の公共・公益施設等間を直接連絡する、ドアtoドアの輸送を検討する。

【郊外部デマンド交通の創出】

- ・登下校時刻の運行による運行便数が1、2便の郊外バス路線から、通院、買い物といった生活交通を確保するために、居住者宅と新得市街地の公共・公益施設等間を直接連絡する、ドアtoドアの輸送を検討する。

【スクールバス再編・一般混乗の検討】

- ・現行のジャンボタクシー及びセダン型車両等による輸送から、財源的に有利なスクールバスによる輸送に再編することにより、郊外児童生徒の通学動線の確保、並びに空席を活用した一般の方の補完的な利用について検討する。

【交流人口の拡大に寄与する公共交通等の維持・確保】

- ・現行のトムラウシ温泉線の運行を維持するとともに、町内観光施設等によける移動ニーズに対応する観光ハイヤーなど、今後のインバウンドの動向にも配慮しながら運行内容の充実化を検討する。

(3)公共交通利用活性化策の検討

1)観光MaaSトカチケ

- ・十勝管内を周遊できる「MaaSトカチケ」について、路線バス及び観光ハイヤーを利用により本町の観光施設等の周遊を含めることや、町内の観光施設等の利用と一体となった共通チケットの作成を検討する。

2)モビリティ・マネジメントの推進

【公共交通乗り方教室の実施】

- ・JR体験乗車やバス体験乗車を総合的な学習授業に取り入れるなど、子どもの時から公共交通に慣れ親しむ機会の提供を検討する。
- ・一般の方へも公共交通を身近に感じることができ環境を整えるために、引き続き地域住民への路線バス乗り方教室を開催する。

【かしこい公共交通の使い方の周知】

- ・交通事故の動向と免許返納の推進や、車と交通安全・環境・健康・維持費等をテーマとしたモビリティ・マネジメントの実施を検討し、公共交通の利用促進を図る。

新得町地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針(案)

【北海道高齢者運転免許自主返納サポート制度の周知】

- ・町内公共交通体系の再編に合わせ、北海道の既存の取組をPRすることにより、免許証返納の促進に取り組む。

【本町独自の運転免許自主返納特典制度の検討】

- ・運転免許返納した方に対して、福祉交通費助成にて居住地域に応じてタクシー助成券の交付額を倍増する取組を行っているが、本制度を継続することで、ハイヤーを含めた町内公共交通の利用を促進する。

3)住民の地元交通事業者への雇用促進

- ・アンケート調査結果において、19～64歳で町民自らが支える公共交通について「ボランティアとして参加可能」と「賃金をもらえるのであれば参加可能」を回答した方は45人となっている。
- ・このような方を対象に、運転手として積極的に募集するとともに、大型免許や自動車運転2種免許の取得、あるいは空白地輸送の講習について支援を検討する。

4)福祉交通費助成(タクシー助成券)のあり方について検討

- ・町内公共交通体系の再編に合わせ、福祉交通費助成のタクシー助成券の配布枚数について再検討を行う。

5)町内公共交通との連携による情報発信

- ・各公共交通の行先等を明確にし、全てのバス停の時刻やJRとの接続時間を把握できることで、地域公共交通の全体像がわかる総合的なバスマップの作成を検討する。
- ・デマンド交通の運行にあたっては、短い期間で地域に根付いていくように、定期的な広報誌等での紹介を検討する。

6)乗継拠点の利便性向上

- ・十勝地域公共交通計画と整合を図るとともに、現在進められている新得駅前周辺再整備を推進し、乗継シームレス化によるサービスの利便性向上を図る。
- ・広域移動の利便性を向上させるため、交通モード間の乗継時間の改善や交通結節点へのアクセス性の向上を図る。

●事業実施の適切性

- ・計画通り事業は実施された。

●地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果

- ・事業は、計画どおり実施されている。
- ・引き続き事業の完了に向けて取り組んでいただきたい。
- ・今後、地域公共交通計画策定の際は、公共交通事業の収支率や公的資金投入額などの事業効率の改善等についても検証していくことをご検討いただきたい。